世界のあしたが見えるまち。TSUKUBA

(仮称)つくば市
陸上競技場
整備基本構想
【概要版】

令和３年(2021 年)４月

これからのやさしさのものさし つくばSDGs

1．基本構想策定の背景と目的

つくば市は、平成 31 年（2019 年）2月、「つくば市スポーツ推進計画〔中間年度見直し版〕」（以下、「スポーツ推進計画」という。）を策定し、スポーツを通して人と人、人と地域、文化・社会がつながるまちを将来像として、様々なスポーツ施策の推進に取り組んでいます。また、ＳＤＧｓの基本理念を取り入れ、市民誰もが気軽にスポーツを行うことのできる環境を充実させるため、地域の実情や市民の意見を反映したスポーツ施設の整備や改修を行っています。

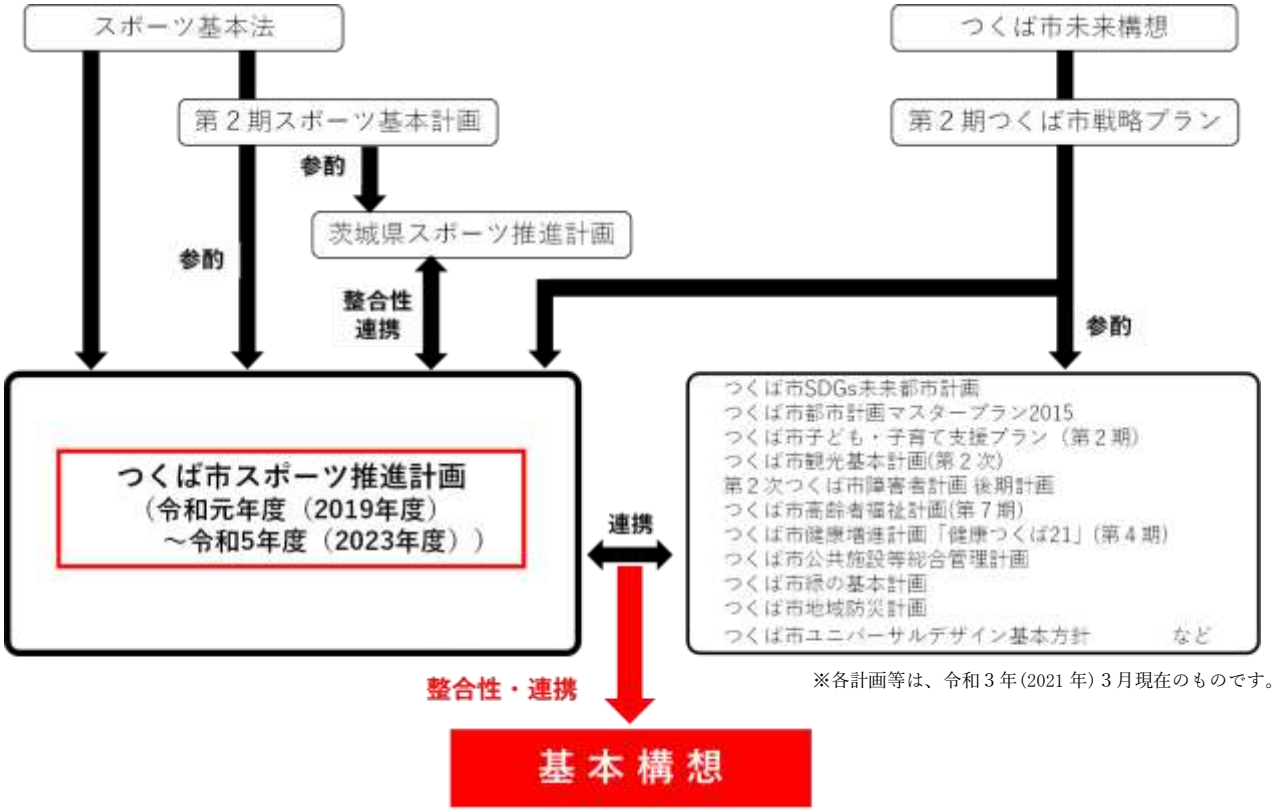
本市では、市町村合併前の施設を引き継いでいることから、小規模な施設を数多く所有しています。一方、陸上競技場に関しては、小・中学生の公式記録の取れる陸上記録会や、公認競技場での実施が条件となる市の競技会が開催可能な市営の施設がなく、これらの記録会や競技会においては、近隣の自治体などの施設を借用する状況が続いています。

このような課題を解決するために、「スポーツ推進計画」においても、陸上競技場の整備検討を重点事項として位置づけ、上郷高校跡地及び筑波地区の小中学校跡地の計 11 校を対象に「陸上競技場整備に関する学校跡地調査」を実施し、陸上競技場整備の可能性について比較検討を行いました。

「（仮称）つくば市陸上競技場整備基本構想」（以下、「本構想」という。）は、つくば市にふさわしい陸上競技場の整備について、スポーツに対するニーズを踏まえ、施設の内容と整備水準、整備上の留意点等を検討した上で、基本的な方向性を示すものです。

2．基本構想の位置づけ

本構想は、下図の各種関連計画との連携および整合性を踏まえ、検討を進めます。



※各計画等は、令和３年(2021 年)３月現在のものです。

3. これまでの経緯

つくば市は、これまで陸上競技場を含めた複合施設の検討として、「（仮称）つくば市総合運動公園整備候補地調査」（平成 10 年（1998 年）6月）、「（仮称）つくば市総合運動公園基本構想」（平成 26 年（2014 年）3月）、「（仮称）つくば市総合運動公園基本計画」（平成 27 年（2015 年）2月）を策定しました。その後、「市長公約事業のロードマップ」（平成 29 年（2017 年）6月）や「スポーツ推進計画」（平成 31 年（2019 年）2 月）を踏まえ、「陸上競技場整備に関する学校跡地調査」（平成 31 年（2019 年）2 月）を実施するとともに、令和元年（2019 年）に住民説明を行いました。

4. 現状と課題の検討

陸上競技場の基本的方向性、施設内容、規模及び整備水準等の検討に当たり、将来の人口と年齢構成の変化を把握することで、市の将来的な財政状況を想定し、陸上競技場の整備及び管理運営に係るコストの考え方を整理しました。

また、市内の公共スポーツ施設の概況を整理した上で、市民ニーズについて、「スポーツ環境に関するアンケート調査」（平成 29 年（2017 年）3月）から陸上競技場整備に係るニーズを把握するとともに、みるスポーツの普及や環境の整備・充実に係るニーズ、及びスポーツ団体の意向等を確認し、導入機能、施設整備水準並びに観客席の収容人数等を検討するための参考としました。

5. つくば市における陸上競技場整備の必要性

市内に公式記録の取れる陸上競技場がなく、他自治体などの施設を借用していることや、市内スポーツ団体の意向等を踏まえると、陸上競技場の整備が必要と考えます。加えて、アンケート調査の結果などから、ウォーキングコース、多目的広場などの市民ニーズが高く、陸上競技場の整備に併せて検討すべきと考えます。

６．基本方針

つくば市のスポーツにおける現状と課題を整理し、陸上競技場の目指すべき方向性について検討した結果、以下のように整備に向けた基本的な考え方を設定しました。

市内の小中学生の公式陸上記録会・競技会及びつくば陸上競技選手権大会開催が可能であり、障害者や高齢者等誰もが利用できる施設

【基本的役割】

- 小中学生の公式記録が取れるとともに、つくば陸上競技選手権大会に含まれる投てき種目も実施できる施設整備
- ＳＤＧｓの基本理念を取り入れ、障害者、高齢者、子どもたちなど市民の誰もが、安全・安心に利用できる施設整備（健常者と障害者が一体で利用できる環境づくり）

【整備上の配慮事項】

- 将来の人口減少を見据えた適切な施設整備を意識し、既存施設の有効活用をはじめとする施設整備とコスト低減が前提
- サブトラックとして活用できるウォームアップ空間・雨天時にも活用できる空間の確保
- ウォーキングに代表される健康の維持増進に対応した空間や日常的な軽い運動やトレーニング空間の充実
- 多様化するライフスタイルに対応し、いつでも気軽に利用でき、スポーツに親しめる環境づくり（夜間照明施設の設置等）と自由度の高い管理運営を想定した施設計画（収益施設の併設等、民間ノウハウ活用）
- 上記と連携した多様な「スポーツプログラム」の提供、参加型イベントや教室等の開催、情報提供の充実、ビジネスパーソン、女性及び障害者等これまでスポーツに関わってこなかった人の誘引・スポーツ実施率向上につながる整備

防災機能を備えた地域活性化拠点

【付随的役割】

- 地域の交流拠点として、多世代が気軽に利用できるスペースを提供するための対応
- 災害に備えた施設整備（広域避難場所／物資輸送の中継地点等の役割を想定）

【整備上の配慮事項】

- 市内の既存公共スポーツ施設に加え、体育館、公園緑地及び河川等との連携を意識したネットワークの拠点として整備
- スポーツに加え、多様な集客イベント等が開催可能な環境整備
- スポーツツーリズムへの波及を考慮
- 避難・輸送を考慮した複数の入口とスムーズでゆとりある動線の確保（バリアフリーにも配慮）
- 周辺地域との一体的な景観形成など環境に配慮した空間づくり
- 科学技術の実証実験の場など「つくばらしさ」の追求

7．整備内容と水準／整備上留意点等

<table>
<tr><th colspan="3">整備の内容</th><th>検討経緯・留意点等</th></tr>
<tr><td rowspan="6">運動施設</td><td rowspan="2">陸上
競技場</td><td>●400m トラック１面（全天候舗装８レーン）
●インフィールドは天然芝（サッカー等の多目的な球技の利用を想定）
●雨天走路（テント掛け）</td><td rowspan="2">【全天候舗装とした理由】
①大会や雨天時の利用、降雨直後の利用を考慮②障害のある方の使いやすさを考慮③市内中学生の大会が他市の全天候舗装の施設で行われることから、同様の環境を考慮
【天然芝とした理由】
①つくば陸上競技選手権大会に投てき種目があり、やり投げに対応（第４種公認以上の公認に必要な「投てき対応人工芝」と比べてライフサイクルコストが割安）②つくば市は日本一の芝の産地でつくばらしさにつながること等を考慮
【雨天走路を確保した理由】
第３種・第４種公認では「無くても可」の施設であるが、「ウォームアップ空間」や「雨天時の活動空間」等の利用活性化を重視
【第４種公認（第３種相当整備）とする理由】
①コストをできる限り抑える（必備用器具の差約 2,400 万円）②市の想定する中学生の大会及びつくば陸上競技選手権大会、障害者の大会など、第３種公認と同規模の大会開催が可能なこと③必要に応じ、将来的に第３種公認にも容易に対応可能となる整備をすることができること等を考慮</td></tr>
<tr><td>第４種公認（第３種相当整備）</td></tr>
<tr><td>用器具・
備品等</td><td>第４種公認に必要な用器具</td><td>【用器具の内容・数量】
公認に必要な最低限を確保</td></tr>
<tr><td>観客席</td><td>●メインスタンド　1,500 席
●芝生スタンド　　2,500 席</td><td>【メインスタンドの客席数の設定】
市内中学の陸上競技大会時の同時来場者数に対応する規模確保
【芝生スタンドの設定】
①低コスト化を見据え、つくば市らしく芝を主体とする整備を重視②芝生を活用したスタンドとすることで柔軟な利活用を促す。（観客席におけるフィジカルディスタンスを十分に確保しやすくすることで、新型コロナウイルス感染症にも対応）③必要があれば大会等開催時には適切な席数を仮設対応可能とする。</td></tr>
<tr><td>管理棟</td><td>●管理事務スペース（受付・医務室等を含む）
●本部室、放送記録室、審判控室、多目的室、会議室、控室
●トイレ（男・女・多機能）／更衣室・シャワー室</td><td>【施設の規模・配置】
①必要最低限の施設面積とする。特別室等は、必要時のみ仮設対応可能とする。②敷地形状・規模に合わせて分散・多棟化も含め、柔軟な施設配置を検討するとともに、施設の多機能化を考慮
【更衣室・シャワー室】
第４種公認では「無くても可」の設備であるが、利用者の利便性や快適性を考慮</td></tr>
<tr><td>運動器具
倉庫</td><td>第３種公認相当の用器具・備品の格納スペースを確保</td><td>【運動器具倉庫の規模】
将来的に多様な大会の開催を可能とするためのスペースを確保する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">整備の内容</th><th>検討経緯・留意点等</th></tr>
<tr><td rowspan="1">園地</td><td>園路広場
・
休憩空間</td><td>●修景・休養・緑陰空間／遊戯空間／多目的広場
●入口・拠点広場／外周散策路・ジョギングコース</td><td>① 園地は、サブトラックとして利用できるウォームアップ空間として利用するとともに、日常の憩い空間としての利用に配慮した整備
② 敷地全体を一周できるコースを確保するとともに、魅力的な散策空間となるよう、線形や園路周辺の四季の景観変化に配慮</td></tr>
<tr><td rowspan="4">便益施設</td><td>防災機能</td><td>防災担当部署と調整して規模・内容を検討（避難場所）</td><td rowspan="2">日常的な利用だけでなく、災害時の避難場所としての活用を想定し、屋外トイレの配置を考慮</td></tr>
<tr><td>屋外
トイレ</td><td>災害対応も考慮した男・女・多機能の各施設</td></tr>
<tr><td>夜間照明
・
電気設備</td><td>いつでも気軽に利用できスポーツに親しめる施設として、夜間の利用に必要な照度を確保</td><td>【夜間照明】
夜間帯の利用を促すために、一般利用に必要な照度を常設確保

【電気設備】
イベント時等の仮設を考慮した整備</td></tr>
<tr><td>駐車場・
駐輪場</td><td>●普通車用 400～500 台程度（バス 33 台分に転用できる 83 区画及び身体障害者用 10 台程度を含む）
●駐輪場 100 台程度</td><td>利用者が少ない平常時の駐車場の扱いを考慮し、駐車場面積の 1/3 程度を芝生等とすることで、平常時には多目的広場として利用できるように整備</td></tr>
<tr><td>附帯施設</td><td>セミナーハウス等</td><td>●会議室・研修室等
●地元企業との連携による物販施設も検討
●地域交流の場
●避難所、備蓄倉庫</td><td>①スポーツ以外の利用や地域活性化のため多様な機能を確保
②災害時の避難所としての活用を想定した整備
詳細は今後、防災担当部署と協議・検討</td></tr>
</table>

※バリアフリー対応：「つくば市ユニバーサルデザイン基本方針」(平成 18 年(2016 年))及び「茨城県ひとにやさしいまちづくり条例」(平成８年茨城県条例第 10 号)に配慮した整備

8．候補地の比較検討

整備に必要な敷地規模について、過年度に検討を行った上郷高校跡地と、高エネ研南側未利用地（全体面積の内、上郷高校跡地と同程度の約 7.0ha を陸上競技場整備敷地として想定）の２箇所を活用可能な候補地とし、「基本条件」、「コスト」、「事業進捗の速度」、「敷地内及び隣接部の条件」、「関連施策等との関係」及び「環境・景観条件」について比較評価した結果、「コスト」「事業進捗の速度」の面で優れ、着実に整備をすすめるべきという観点から、上郷高校跡地を整備候補地として採用しました。

上郷高校跡地の概要

北側敷地　約 3.1ha ＋ 南側敷地　約 3.9ha＝約 7.0ha

項目	内容
所在地	つくば市上郷 2494 番地３
敷地面積	70,089.30 ㎡
地目	学校用地
現況	校舎，附属施設の敷地及び運動場
区域区分	市街化調整区域
建築制限	建蔽率 60%／容積率 200%
交通 アクセス	● つくばエクスプレス研究学園駅から約 8.0km ● つくばエクスプレス万博記念公園駅から約 6.9km ● 関鉄パープルバス：「上郷大宿」からつくばセンターまで約 30 分 ● つくバス：上郷シャトル「手子生」から研究学園駅まで約 25 分 西部シャトル「上郷台宿」から万博記念公園駅まで約 30 分 ● 圏央道常総ＩＣから約 5.8km ● 圏央道（仮称）つくばスマートＩＣ（2022 年以降供用開始予定）から約 6.2km
上水道	● 整備中
下水道	● 整備済

９．施設の配置

候補地である上郷高校跡地は、筑波山をはじめとする景観や隣接する農地、周辺地域の住環境と調和した一体的な土地利用を図るとともに、既存の緑地や建物を活用した配置などを考慮した「①南北の現状敷地を活用するプラン」、「②南北敷地を一体化して活用するプラン」の２通りの施設配置を検討しました。

①南北の現状敷地を活用するプラン

上郷高校跡地は市道によって南北に分かれていますが、北側の敷地だけでも 400mトラックと観客席スペース、倉庫等の第４種公認（第３種相当整備）の陸上競技場施設の配置が可能です。この配置は、大規模な造成や施設撤去を伴わずに主要施設の整備が可能で、特徴的なランドマークとなっている良好な既存樹木（かつての学校の面影を残すイチョウ並木やサクラ並木等）も保全できます。

ゾーニング図

②南北敷地を一体化して活用するプラン

敷地中央部を東西に横切る市道を廃止し、南北の敷地を一体として整備することで、主要施設の配置の自由度が高まります。特に、北側敷地にまとまった規模の駐車場を配置することができるため、幅員に余裕のある既存道路をアプローチ道路として活用可能であることが大きなメリットです。加えて、筑波颪（つくばおろし）と呼ばれる冬季の北西風を防ぐバッファー（芝生スタンドと一体の樹林帯を伴う築山）の整備により、快適な利用が担保でき、強風により記録が未公認となるリスクの低下も期待されます。さらに、車道によって動線が遮られることなく敷地内を一周する安全で快適な周回動線（ジョギング・散策ルート）の配置が容易となります。

ゾーニング図

10. 管理運営の方向性

（1）陸上競技場の管理・運営の一体的取組みの推進

陸上競技場の管理運営に当たっては、市民ニーズに対応したサービスを提供するため、民間事業者が有するノウハウの活用が考えられます。また、コスト縮減及び財源確保のため、民間資金やＰＰＰ※1 などの手法の導入を検討します。

（2）フォローアップの実施方針（ＰＤＣＡサイクルに沿った運営）

陸上競技場の維持管理等について、ＰＤＣＡサイクルに沿って進めるため、具体的な評価方法（スケジュール、実施主体、評価基準、運用への反映方針等）及び評価の反映方法の検討を行います。

（3）ＳＤＧｓへの対応　（ユニバーサルデザインの推進）

将来の管理運営に当たっては、ＳＤＧｓ※2 の基本理念を取り入れ、障害者、高齢者、子どもたちなど誰もが、安全・安心に利用できる施設とするため、計画・設計の段階から多様な利用者を想定し、有識者等へのヒアリングを実施します。また、市民の利用に当たっては、情報を含めたアクセシビリティの充実を図るとともに、完成後も市民が利用しやすいよう継続的な改善を行います。

※１　ＰＰＰ　：Public Private Partnership の略。公共サービスの提供に民間が参画する手法を幅広く捉えた概念で、民間資本や民間のノウハウを活用し、効率化や公共サービスの向上を目指すもの。

※２　ＳＤＧｓ：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。

11. 整備スケジュールの想定

本構想策定後の計画・設計・施工の流れ及びスケジュールを以下のように想定します。なお、本スケジュールは現段階のものであり、今後の検討状況によっては変更となる可能性があります。

基本構想策定	令和2年(2020 年)4月～令和3年(2021 年)4月
大規模事業評価	令和3年度(2021 年度)
基本計画策定	令和4年度(2022 年度)
基本設計・実施設計	令和5年度(2023 年度)
工事施工（２年間）	令和6年度(2024 年度)～令和7年度(2025 年度)
供用開始	令和8年度(2026 年度)